



生徒の正面には、生徒手書きの標語「剣道は礼に始まり、礼に終わる」を掲げた
また、黒板の他に授業のポイントをまとめた掲示物を作成し、生徒の理解を深める工夫を行った

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて 65

外部指導員の活用例 剣道 ①

埼玉県久喜市立久喜南中学校教諭

武井 仁

久喜市には中学校が11校あり、剣道を選択した中学校が5校ある。本校では平成23年度より剣道の授業を行ったが、市内の中学校のうち、剣道部もなく、教員も経験がないのは本校のみである。23年度は教員のみで授業を行ったが、24年度より、久喜剣道連盟から延べ約50名の指導者を招いて、授業協力をいただいた。

今月号では外部指導員を活用するにいたった経緯やその準備、指導計画、生徒の理解を深めるための工夫について紹介し、次号で実際の指導について触れていきたい。

1 外部指導員活用 にいたった経緯

私は平成23年度に本校に赴任したが、剣道は初めて教える武道だった。武道の授業ということでは、前任校には柔道場があったので、柔道を8年間指導し、前々任校には簡易まわしと相撲マットがあったため、すもうを4年間指導してきた。

本校の体育館2階には武道場が整備されているが、生徒数減少に伴った部活動の削減で、剣道部が

なくなってしまう。しかし、1クラス分にあたる防具40個と竹刀60本が授業用に用意されていたため、剣道が選択された。

23年度は初めての剣道指導ということもあり、講習会に参加するなどしたが、その他にも市教委の指導のもと、研究授業を行った。

その際、久喜剣道連盟の戸賀崎正道会長（当時）のことをお聞きし、ゲストティーチャーとしてお呼びして授業を手伝ってもらった。戸賀崎先生は本校が所在する久喜市清久地区の区長を務められており、同年の卒業式と24年度入学式でお会い

した際に、「剣道の授業をやるなら久喜剣道連盟ができる範囲でお手伝いをしますよ」とお声をかけていただいた。

そこで外部指導者として久喜剣道連盟の協力を求めることとし、受け入れ体制の確立を行った。

前述のとおり、本校には剣道部がないが、生徒の中には小学校時代に戸賀崎先生の運営する戸賀崎道場（神道無念流）で剣道を習っていたという者もいた。また、他の指導員の方にも、教えたことがある生徒や、近所の生徒だったりといざうがあり、気軽に声をかけていただくことができた。

2 外部指導者活用 に向けた準備

剣道授業は24年11月初旬から12月初旬にかけて約1カ月間、行うこととし、外部指導者の方には3年生の授業に入っていたくこととした。3年生は全11回で日程を調整した。

5月に戸賀崎先生から中学校武

道必修化に伴う剣道授業の応援可能者12名の名簿を中山龍男校長に提出された。

それを受けて、日程として、日課表（月曜、水曜、金曜と火曜、木曜で日課が違う）や月の学校行事予定表、週案（週の時間割）とその中に教員の出張や行事を入れた表を用意した。

また、1・2年生用と3年生用の学習指導計画や、北海道教育委員会の学校体育実技指導資料と剣道における単元計画例を参考として計画した学習指導案、本校の保健体育科学習指導案を立案し、剣道授業内で使用予定の剣道学習カードや剣道学習グループ対戦表を用意して、久喜剣道連盟と10月初旬に打ち合わせを行った。

渡した日程の資料に基づいて、剣道授業が行われる5週間のうち、久喜剣道連盟の外部指導者12名それぞれが出席できる日程の予定表を作成していただいた。結果、11時間の授業で、延べ50名の指導者が協力可能であることが判明した。

武道（剣道）学習指導計画（案）

久喜市立久喜南中学校

平成 24 年度

段階	1・2年生 指導計画	3年生 指導計画
	＜オリエンテーション＞ ○ゲストティーチャーの紹介と指導の役割を解理する。 ○剣道の歴史や特性、礼法的重要性、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を理解させる。 ○礼法（左座右起）を確認させる。 ○グループ編成と役割分担をする。 ○学習目標と学習計画を立てる。 ○用具の扱い方と安全について理解する。 ○準備運動の確認をする。 ①垂れ・胴をつけてランニング ②準備運動 ③ストレッチ ④いろいろな素振り ⑤繰り返し 等	＜オリエンテーション＞ ○ゲストティーチャーの紹介と指導の役割を解理する。 ○剣道の歴史や特性、礼法的重要性、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を理解させる。 ○礼法（左座右起）を確認させる。 ○前段階の学習を振り返るとともに、今段階の学習のねらいと内容を理解する。 ○グループ編成と役割分担をする。 ○学習目標と学習計画を立てる。 ○用具の扱い方と安全について理解する。 ○準備運動の確認をする…①垂れ・胴をつけランニング②準備運動③ストレッチ④いろいろな素振り⑤繰り返し 等
	ねらい1 技ができる楽しさや喜びを味わう ①基本動作の練習をする。 ・構えと目付け、体さばき、足さばき、いろいろな素振り、切り返し ・打突の仕方 - 面打ち、小手打ち、胴打ち ・打突の受け方 ②しかけ技の練習をする。 ・二段の技（面一面、面一胴） ③総合的な練習をする。 ・剣道遊び ・総合打ち込み ・約束練習 ・打ち込み練習 ・自由練習 ・基本試合 ねらい2 身に付けた技を用いて攻防を展開し、楽しさや喜びを味わう ①基本となる技の練習をする。 ○しかけ技 ・一本打ちの技（攻めに対する相手の変化をとらえた打突） ・二段の技（面一胴、小手一面 等） ・引き技（引き面、引き胴 等） ○応じ技 ・抜き技（面抜き胴、小手抜き面 等） ②総合的な練習をする。 ・剣道遊び ・総合打ち込み ・約束練習 ・打ち込み練習 ・自由練習 ・基本試合	ねらい1 今までに身につけた技を使って、練習や試合ができる 今までに身につけた技を使って、練習や試合ができる。 ①基本動作の練習をする。 ・構えと体さばき、足さばき、正面、右胴、右小手打ち ②しかけ技の練習をする。 ・二段の技（小手一面、面一胴 等） ・払い技（払い面、払い小手） ・出ばな技（出ばな面、出ばな小手 等） ・引き技（引き面、引き胴 等） ③応じ技の練習をする。 ・抜き技（面抜き胴、小手抜き面、面抜き面 等） ・すり上げ技（小手すり上げ面、面すり上げ面 等） ・返し技（面返し胴） ・打ち落とし技（胴打ち落とし面） ④総合的な練習をする。 ・切り返し（打ち返し） ・打ち込み練習 ・かかり練習（かかり稽古） ・自由練習 ⑤試合1を行う。 ・円陣試合（1本勝負） ・個人リーグ戦 ・グループ対抗戦 ※ねらい2に向けて各自やグループの課題を設定する。 ねらい2 得意技を身につけ、それを生かして練習や試合ができる ①得意技を身につけるために、これまで学習した技を選択して練習する。 ※2人1組やグループで選択して練習する。 ※うまくいかない場合には、技を変更して練習する。 ※新しい技に挑戦して練習する。 ②総合的な練習をする。 ・約束練習、打ち込み練習、自由練習、 等 ③試合2を行う。 ・個人トーナメント ・グループトーナメント ※審判は3人で行い、有効打突の見きわめや審判法について学習する。 ※記録や運営について、お互いに協力して行う。
	高まった技能で簡易試合を楽しむ 単元の学習を振り返り、学習のまとめをする。 1 選択した技の課題解決練習を行う。 ・得意技としたい技を選択する。 ・課題を確認する。 ・技や課題に応じた練習を選択し練習する。 ・自由練習をする。 2 まとめの試合を行う。 ・団体戦 ・総当たり戦 3 学習の成果を評価する。	高まった技能で簡易試合を楽しむ。単元の学習を振り返り、学習のまとめをする 1 選択した技の課題解決練習をする。 ・得意技としたい技を選択する。 ・課題を確認する。 ・技や課題に応じた練習を選択し練習する。 ・自由練習をする。 2 まとめの試合を行う。 ・団体戦 ・総当たり戦 3 学習の成果を評価する。

3 学習指導計画と生徒の実態

(1)学習指導計画と学習目標

全体の指導計画については、左ページに表を掲載したので、ご覧いただきたい。

前述のとおり、剣道を教える時期は11月初旬から12月初旬としたが、これは汗で防具を汚さないように、少し肌寒いくらいの季節を選んだためである。この時期を選んだ甲斐もあってか、24年度に1年生から3年生の授業で防具を使用したのが、現在、防具から特有の臭いは発していない。

また、体育館には生徒が習字で書いた「剣道は礼に始まり礼に終わる」という標語を掲げ（前ページ写真上方）、剣道を学ぶことで、武道の特性や文化に触れることを通して、礼法、マナーなどを身に付けさせることを意識した。

各学年別の目標としては以下のとおりである。

1年生では正しい礼法を見つけ

させ、相手への感謝の気持ちや自分を律する態度を身に付けさせること。

2年生では剣道の基本的な技を身に付けさせ、グループ内で試合ができるようにさせること。

3年生では外部指導者の指導のもと、正確な技を身に付けさせ、クラス全員と試合ができるようにさせること。

また、授業のねらいとして、1、稽古の約束を守り、得意技を見つけ、それを活かして練習や試合ができる（技能）。

2、礼法を守り、互いに助言しながら練習や試合をすることとも



補強運動として、腕立て伏せなども行った

スポーツテスト結果（平成 24 年度・中学 3 年生）

項 目		握力	上体おこし	長座体前屈	反復横とび	シャトル	50 m走	立ち幅とび	ハンドボール
男子	本校平均	38.55	32.74	53.55	62.23	93.32	7.14	220.81	27.39
	県 平 均	35.80	31.95	50.17	54.87	90.75	7.53	213.49	24.61
	比 較	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	本校平均	26.25	25.17	48.39	52.19	60.14	8.49	170.06	15.83
	県 平 均	26.11	26.55	49.82	46.80	62.72	8.64	174.70	14.54
	比 較	○	×	×	○	×	○	×	○

に、安全に留意した活動ができる（関意態）。

3、学習資料や助言を参考に各自の課題を設定し、課題に応じた適切な練習が選択できる（思判）。

を掲げ、生徒にも示して周知した。

(2)生徒の実態

生徒は全体的に落ち着いている。スポーツテストの結果（上表）を見ると、男子は県平均を上回っており、女子は下回っている、男女の差が大きい。しかし、運動自体は好きな生徒が多く、授業に対しての意欲・関心は高い。

剣道の授業を行う前にアンケートをとり、次ページ表のような結果が出た。本校は剣道場が整備されており、防具や竹刀なども揃っている方である。

しかし、アンケートの結果では、1、2年生の時に授業で経験はあるが、あまりやりたくない種目としており、生徒のほとんどが剣道の授業に対して不安を持っていた。

[illegible][illegible][illegible]

武道 (剣道) 学習カード

久喜市立久喜南中学校

1 剣道の特徴

剣道の特性は、防具を着け竹刀を持って相手と対し、互いに相手の動きや技に応じて打つ、かわすなどをしながら競争する対人的競技である。そのための竹刀の操作や身体動作と相手との「攻め合い」などが重要となる。

また、我が国古来の剣術から発生した競技であり、伝統的な礼法や行動の仕方、練習方法（稽古）を学びながら、安全に練習や試合ができるために相手を尊重する公正な態度が要求される。

剣道は、武道の特性としての長い歴史を持つものであるが、現在では男女や年齢を問わず、生涯にわたって手軽に楽しむことのできるスポーツ性の要素も深くなっている。そういった面からも生涯スポーツの基礎を培う運動領域であるといえる。

2 単元の目標

- | | |
|--|-------|
| 剣道の礼儀作法や基本動作を正しく身につけ、互いに相手を尊重しながら公正な態度で練習や試合ができる。 | 【態度】 |
| ・自分の技能に応じた課題を設定し、その解決のための練習方法や内容を工夫するとともに、安全に留意して活動することができる。 | 【学び方】 |
| ・基本動作や対人の技能を身につけ、自分の得意技を生かした練習や試合ができる。 | 【技能】 |
| ・基本動作や試合のルールを理解し、練習や試合を通して公正な判断で行うことができる。 | 【判断力】 |

3 学習計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	はじめ 剣道の特性や学習の ねらい、計画を理解する 学習内容を知り学習の 見通しを持つ。	なか ねらい① 今までに身につけた技を使って、練習や 試合ができる。 ねらい② 得意技を強みにつけ、それを生かして練習 や試合ができる。	まとめ 高まったお能て情熱を 行い、楽しめ。 単元の学習を振り返 り学習のまとめをする。									
	1 準備 あんざつ 健康観察 本時のねらいと課題の確認											
2オリエンテーション ・特性・ねらい・計画 ・評価の内容	2準備運動 補助運動 慣れの運動											
3学習の進め方、約束 ・酒風、片手打ちの方法 ・準備運動の方法 ・防具の着脱方法 ・学習カードの使 方 ・グループ構成と役割分担	3打突のしかたを練習 ・素振り 前衛後衛 跳躍での正面・左右両側 ・正屈立ち・右肩打ち・右すり手打ち 4受け方の練習 5自由練習（互角稽古）を行う。 ※ねらい②に向けて各自やグループの課題を設定する。											
4構えと体さき	6しかりかけの練習 7 総合的の練習 8 打ち込み練習											
	5・6・7 整理運動 まとめと評価 次時の予告 あんざつ 後片付け											

4 剣道の授業を通しての学習課題

課 題	
--------	--

学習カード（上が1ページ、左列上から2、3、4ページ）

剣道についての意識調査アンケート結果（平成24年度・3年1組）

1	今までに剣道を習った経験はありますか。	回答数	%
	①ある	33	100%
	②ない	0	0%
2	1で「ある」と答えた人のみ答えてください。(複数回答可)		
	①小学生の時、道場やスポーツ少年団で習った	3	9%
	②中学生になって、体育の時間で習った	33	100%
	③現在も道場やスポーツ少年団で習っている	0	0%
3	剣道の授業について、あなたはどのように考えていますか。(複数)		
	①自信がある	1	3%
	②自信はないが、楽しみである	5	15%
	③練習すれば何とかなるだろう	8	24%
	④うまくできるか少し不安だ	12	36%
	⑤痛そうなので、できれば学習したくない	5	15%
	⑥何も考えていない	4	12%
	⑦その他 ()	0	0%

4 あなたが、剣道の授業で学びたいことは、どんなことですか。(複数回答可)

①「基本動作」を覚えたい	17	52%
②「基本技術」を覚えたい	15	45%
③「仕掛け技」を覚えたい	8	24%
④「礼儀」を身につけたい	8	24%
⑤「体力」を高めたい	5	15%
⑥「精神力」を高めたい	8	24%
⑦「試合」に勝ちたい	10	30%

5 あなたが、剣道の授業で心配なことはどんなことですか。具体的に書いて下さい。

- ・上手くできるか心配である。(5人)
- ・防具の付け方が心配。(5人)
- ・防具をつけるのがめんどくさい。
- ・小手などでケガをしそう。
- ・人をたたくのが嫌だ。
- ・授業についていけない。
- ・竹刀を振ったとき距離感がつかめず、しっかりと技が決まったか分からない。
- ・基本が全くできない。
- ・試合に勝てるか。
- ・技を覚えられるか。
- ・頭が痛くなるので心配。
- ・裸足なので心配。
- ・冷え性でもやけが毎年悪化しているので心配。

(1) 学習カードの活用

生徒の学習理解を深めるために
2つの工夫を行った。すなわち学
習カードと掲示物の活用である。

学習理解を深める
ための工夫

4

今回使用した学習カードのように、剣道の特性や単元の目標、学習計画を生徒に示すことで理解できるように工夫した。

自己評価用の表は、学習技能の
確認用、授業全体を通して中間段
階における自己評価用、毎回の
授業での自己評価用の3種類を作
成した。

学習技能の確認用の表は「たつ
じん・達人」への道！ と題し

て、基本動作（剣道具のつけ方や中段の構えなど）には「た」、基本技能（面打ちや小手打ちなど）には「つ」、応用技能（払い面や面抜き胴など）には「じ」、試合については「ん」と項目分けし、すべての学習技能ができるようになるば「たつじん」達人」というわけである。

この「たつじん 達人」への道！
は、前任校で柔道を教えていたと
きに利用しており、今回はそれを
剣道に置き換えて作成した。

(2) 揭示物の活用

また、基本動作や基本技術など、その回の授業でポイントになることを、副教材の『ワンダフルスポーツ 2012―2014』（新学社）から拡大スキャンしてボードに貼り付け、前に掲示した。

また、残心や気剣体一致といった剣道の専門用語についても、説明文を拡大印刷して掲示することで生徒の理解を助けるよう努めた。

次号、実際の指導を紹介する。